

むかし、ある山寺に、和尚さんと小僧さんがいました。和尚さんは、たいそうけちんぼうで、どこから何をもらっても、小僧さんにはひとつもやりませんでした。

あるとき、檀家からぼたもちをもらいました。和尚さんは、ぼたもちを戸棚にしまっておきました。小僧さんは、食べたくてしかたがありません。

しばらくして、和尚さんは、用があつて出かけて行きました。小僧さんは、こっそり、ぼたもちをぬすんで食べてしまいました。そして、残つたあんこを、本堂の阿弥陀さまの口のまわりにぬりつけて、知らん顔をしていました。

やがて、和尚さんが帰つて来ました。和尚さんは、ぼたもちを食べようと思つて重箱のふたを取りました。中には何もありません。

「小僧、小僧、おまえ、ぼたもちを食べただろう」と、和尚さんがいうと、小僧さんは、

「いいえ。食べてません」と答えました。

「うそをつくな」

「本当です。食べてません。けど、阿弥陀さまが食つたかもしれん」

「どうしてだ」

「だって、阿弥陀さまの口にあんこがついてます」

和尚さんが、阿弥陀さまの所に行つてみると、小僧さんのいったとおり、阿弥陀さまは、口にあんこをいっぱいつけて、すましていました。和尚さんはそれを見て、

「悪い阿弥陀さまだ。なんでぼたもちをぬすんだ」といつて、いきなり阿弥陀さまをたたきました。阿弥陀さまは、「くわん」と鳴りました。和尚さんは小僧さんに、

「ほら、小僧、阿弥陀さまは食わんとおっしゃってるぞ」といいました。

小僧さんは、

「それなら、かまに入れて煮るといい。きっとしゃべります」といいました。和尚さんは、阿弥陀さまをかまに入れて煮ました。すると、阿弥陀さまは、「くた、くた、くた」と、あわをふきました。

「そうら、阿弥陀さまは、食つた食つたとおっしゃってます」と、小僧さんがいいました。和尚さんは、

「ほんに、そうだなあ」といいましたとき。

おしまい。